

# 自己評価票

自己評価は全部で101項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム晴遊庵
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県長岡市大字日越
記入者名 (管理者)	飯浜好子
記入日	平成19年12月10日

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	あらためて理念づくりを行い、職員全員で目指す所をひとつにして取り組んでいる。		必要に応じて理念の見直しを行っていく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員全員で理念を作り上げ、いつでも見れる所に掲示し、意識しながら日々の業務に取り組んでいる。		作りあげた理念を基に、個々の具体的なケアについていつでも必要があれば検討していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所は「笑顔」をキーワードにして利用者様も職員も自然な笑顔で過ごせるように取り組んでいる。案内には目標を掲示しており、誰でも見る事が出来るようにしてある。		地域の方にも当事業所の目標を理解していただけるように取り組んでいく。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者・職員とも日頃から散歩や畑作業をしている人と挨拶を交わし、気軽に立ち寄っていただけるよう声掛けしている。		地域の方が気軽に立ち寄ってくださるよう、これからも工夫を重ねていく。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のコミュニティセンターの行事や町内の行事をお聞きし、情報を得て出来るだけ参加するよう心がけている。地域のグループホームの行事に参加したり、来てもらったりしている。		利用者様が楽しく、無理なく参加できるよう配慮し、出来るだけ地域の行事に参加し交流できるようにしていく。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に発信しているおたよりに晴遊庵一口メモを加え、グループホームの紹介をしたり、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報を載せるようにしている。		地域に発行するおたよりの内容の充実を図る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年度の改善点に対し積極的に検討し、全員で自己評価に取り組んでいる。</p>		<p>外部評価により自らの取り組みについて評価していただき、さらにあらためて取り組むべきことを理解し向上につなげていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の委員を定めず、毎回いろいろな方に参加していただき、参加者全員からお聞きした意見を活動に取り入れ、次回の会議で報告している。</p>		<p>今後、さらに充実した運営推進会議になるよう検討していきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターが主催する研修に参加し、サービスの向上につなげている。庵の勉強会で包括支援センターの働きについて学び、良く理解できていなかった点については、地域包括支援センターの職員にお聞きするなどして取り組んだ。</p>		<p>地域密着サービス事業者の交流会や勉強会について提案した。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護の研修に参加し、報告書を作成し、職員間で共有している。</p>		<p>独自の勉強会で行うことを検討している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止の研修に参加し、報告書を提出し、職員間で共有している。</p>		<p>独自の勉強会で行うことを検討している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し、ご家族様には理解を得られている。		契約時には説明の徹底を図るが、その後も疑問等あればいつでもお伝えする。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様に意見や要望を個々にお聞きし、毎日のミーティングで話し合っている。		併設病院に設置してあるニコニコボックスの活用について説明する。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族様、来庵時に利用者様の状態を報告し、さらに毎月おたよりを発行しお知らせしている。庵内に行事の写真を掲示し、ご家族様来庵時に見てもらっている。健康状態に変化があった時は電話で速やかにお伝えしている。		今後ご家族様来庵時には積極的に状態をお伝えするとともに、毎月発行のおたよりの内容の充実を図りたい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において参加ご家族の意見をお聞きし、職員や上司に報告し現場に活かすようにしている。		ご家族様と良い関係を築き、気軽にご家族様の意見が言えるように、配慮・工夫する。併設病院に設置してあるニコニコボックスを活用していただく。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日ミーティングを行い、業務内容や利用者様の状況に応じた対応について話し合っている。また、月1回勉強会や会議を行い、アンケートにより内容を話し合っている。		職員の声が自由に発言出来るように配慮・工夫していく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	受診や行事等がある日は職員数を増やし、事故なく安全に行えるようにしている。日中、職員が利用者様にゆっくり関わられる勤務調整をしている。		今後も利用者様の状況によって必要時は職員数を調整していく。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動があるときは利用者様によく説明し、利用者様が不安なく生活できるようにしている。		他の職員がフォローに回り、新しい職員がなじみやすい状況を作るようにする。
18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	マニュアルを作成・ファイルし、職員は把握している。		更にマニュアルの見直し、新たなマニュアル作成を行っていききたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には順番に参加し、報告書を提出し、全員で閲覧している。独自で定期的に勉強会を開催し、自ら学ぶ意欲が出るように働きかけている。</p>		<p>研修の情報を職員に伝え、意欲の向上に努めている。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者が参加する研修会に出席し、職員同士の交流ができるようにしている。地域の他事業所の行事に参加したり、来てもらったりして交流を図るようにしている。</p>		<p>同法人のグループホームで、お互いに行き来して研修を行うなどして、サービスの向上に努めている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>上司は毎朝職員の顔を見て、悩み等あればいつでも相談できるようにしている。</p>		<p>職員が気軽に上司に相談できるようにしている。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>上司は毎朝職場に来て、職員や利用者様の様子を聞き把握している。研修などへの参加を働きかけ、職員の向上に積極的である。</p>		<p>職員の資格取得に向けて支援している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談員よりご本人の要望をお聞きし、情報をもらいケアにつなげている。	利用までの間にご本人とご家族様で見学し、安心して入所できるようにしていく。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	相談時に不安な事や困っている事などをお聞きし、晴遊庵の説明をして理解してもらっている。	相談員が情報をお聞きする際、同席し一緒にご家族の悩みを受け止めていけるようにしたい。
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談時にお聞きした情報から、暫定プランを作成し対応している。	相談時の情報収集を多くし、より良いケアを提供できるように努めていきたい。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設の老健からの入所がほとんどでいきなりの利用になっているため、入所時は職員が笑顔で声かけや見守りを行いながらなじみの関係を築いていくようにしている。	今後も、混乱なく生活できるようにを笑顔で声かけをして、ここに来て良かったと思えるようになじみの関係作りをしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者様と一緒に調理を行い、楽しみながら調理の仕方や味付けの仕方などを利用者様からお聞きしている。</p>	<p>今後も利用者からしていただいた時は感謝の言葉を伝え、良い関係を継続していきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者様の状況や気持ちをご家族にお伝えし、ご家族も気持ちよく協力していただきご本人が安心して過ごせるよう配慮した。</p>	<p>今後も、利用者様の状況をご家族にお伝えし、ご家族の力を活かして協力していただきながら一緒に支援していきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ご家族が来庵されたときには日頃のご本人の状況をお伝えしている。おたよりで庵の行事への参加を働きかけている。年末年始やお盆など、あるいは利用者様の状況を見ながら、ご家族に外出や外泊の声掛けをし、良い関係が継続できるよう心がけている。</p>	<p>今後も、ご家族が来庵しやすいように行事参加への働きかけを工夫していく。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者様が以前から利用していた美容院へ行かれたり、近所のなじみの方が来庵されたりしている方がおり、利用者様の今までの生活関係を大切に支援している。</p>	<p>今後も来て頂けるように来やすい雰囲気を作ったり、こちらからなじみの方に会いに行けるように検討していきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>職員がお茶会やレクリエーションの際、利用者様を尊重し、その利用者様のすばらしい所を他の利用者様にお伝えする事でお互いが認め合っている。また、利用者様同士がお互いに譲り合ったり、手伝いあったりしている時は感謝の言葉を伝えている。</p>	<p>今後も利用者様同士が積極的に良好な関係を作れるような場面を提供していきたい。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院のため退所された利用者様に対し、現利用者様が面会を希望され一緒にお見舞いに行き、大変喜ばれた。</p>	<p>今後、サービス利用が終了された方やそのご家族にも、いつでも来庵していただくよう働きかけていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者様ひとりひとりに、身構えずに話せるような環境でさりげなくお聞きしたり、表情をみながらご本人の意向を把握するようにしている。</p>	<p>職員は1人1人の生活に沿った暮らしを提供したいと考えている為、今後も会話を通じてその都度、利用者様の希望をお聞きしていく。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者様の生活歴を入所時にお聞きし、プランにつなげている。日頃の会話の中からも、今までの生活についてお聞きしたり、ご家族の面会時にも今までの習慣などをお聞きし職員で共有している。</p>	<p>更に、利用者様との会話を増やし、生活歴や習慣などをお聞きし、楽しい生活が送れるようにしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>調理・レクリエーション・入浴時等で、出来る事が増えるような環境や場を提供し、出来た事の発見をノートに記録し職員で共有し、翌日からの生活に役立てている。</p>	<p>今後も発見ノートの活用をしていきたい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人・ご家族から、希望・意見をお聞きし、記録や職員からの情報をもとに居室担当とケアプラン作成者がプランを作成し、全員で確認しケアにあたっている。</p>	<p>更に、その方に沿った個別のプランがその方の生活を充実させるように計画していきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的にご本人・ご家族の希望をお聞きしてプラン見直しをしているが、状態変化があった時はモニタリング・アセスメントをしてプランの立て直しをしており、ご本人・ご家族の了解を得ている。</p>	<p>今後も、状態変化があったときには迅速にプランを立て、状態にあったケアを提供していきたい。ご本人・ご家族の要望の真意をもっと把握して行きたい。</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランの内容以外にも、エピソード等を記録することで振り返りが出来ている。「気づき・発見ノート」に利用者様のこんなことが出来たという事などを記入し、職員で共有し生き生きとした生活が出来るように役立てている。</p>	<p>記録の見やすさ・書きやすさを検討しわかりやすい記録を残したい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームの多機能性を活かしたサービスはまだ行われていない		今後、地域の声や状況に応じて法人と検討していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して、民生委員と意見交換をしたり、お便りで地域にボランティアの協力を働きかけている。		今後も運営推進会議やおたよりで働きかけを行っていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のグループホームの協力を得て、お互いの行事に参加するなどして交流を図っている。		今後、利用者様の希望をお聞きしながら、近隣の図書館や公民館、高齢者センターの利用を考えていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい、参加者の声を聞いてもらったり、包括支援センターから情報をもらったりしている。包括支援センターが開催する講演や検討会に参加し、自己の向上に努めている。		地域包括支援センター職員に地域密着サービス事業者の研修や交流を提案した。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族の希望により、併設の病院に職員が付き添って受診し、ご家族に報告しており、ご家族の納得を得ている。		日々の状態を毎日看護師に報告しており、変化があるときは定期受診でなくても職員が付き添って外来を受診し、早い対応を心がけている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医とご家族に報告し、ストレス外来の受診の指示が出た方は、専門医の治療を受けている。		利用者様の状態変化があるときは速やかに看護師を通じ主治医に報告しより適切な治療が受けられるようにしている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の内科外来看護師と上司の総師長に健康状態を把握してもらい、相談、助言をもらっている。		休日や夜勤帯での緊急時にスムーズに医療が受けられるよう、緊急時マニュアルをさらに周知徹底していきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院、ご家族との情報交換を密に行ない、職員もご本人と会って、状況を確認しながら、早く退院できるよう連携をとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人の方針に従い、職員全員が共有している。状態の変化をご家族や医師に報告し、状態を確認してもらっていることでご家族に考える時間が出来ている。		ご本人の負担が重くならず、ご本人にとって一番安楽な終末期を迎えられるようご本人・ご家族・医療機関と話し合っていく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人、ご家族の意向を大切にしながら事業所に出来る最大のケアを提供し、急変時は併設病院、老健、ご家族と連携を取り、意思を確認しながら対応をしている。		安心して終末期を迎えられるように併設病院と共に取り組んでいく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい生活になってもなるべく混乱せず暮らしていけるよう、これまでの生活環境、支援の内容について情報提供をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自施設で勉強会を行ったり、法人内のサービス委員会に参加し、職員の意識の向上を図り、本人を尊重した対応を心がけている。	今後も勉強会を行ない、尊厳の大切さについて職員間で周知徹底していきたい。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様にあわせて様々な場面で声を掛け、自分で決められるよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、その人の状態を見ながら声をかけ、柔軟に対応している。利用者様の思いを汲み取り、好みに合わせたレクリエーションを取り入れている。	職員が利用者様との会話を多く持つ事で、利用者様の思いが何かを感じ取り、したいことが自然に出来るように一緒に行うようにしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	毎朝自分で化粧をしている人もいるが、時々マニキュアや化粧を職員と楽しんでいる。ご家族の協力を得て、ご本人の希望に添って馴染みの美容室に通っている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の出来る力を活かし、味付けや盛り付け、後片付けを職員と一緒にこなしている。	外食の行事を取り入れ、好きなものを食べて頂くよう工夫する。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者様の好みを把握し、一緒に買物に行き、好きな物を選んでもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	各居室にトイレが設置しており、他者への気遣いなく排泄が出来る。排泄に介助が必要な方は、チェック表を使用し時間を見計らって誘導している。		高齢になり利用者様自身で排泄管理を行うのが困難になっても、職員が誘導することでトイレで排泄できるようにしている。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	利用者様の希望をお聴きし、時間やタイミングを図っている。入浴時、一緒に歌を歌ったり、入浴剤を入れるなどして気持ち良く入浴していただいている。		入浴が好きでない方にも、気持ちよく入浴していただけるような工夫をして、清潔保持できるようにしたい。
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	毎朝体操や居室の掃除を行ったり、利用者様の希望などを取り入れ、日中の活動を増やし、生活リズムを整えるように勤めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	漬物・畑作業・味付けの仕方などを教えていただいたり、居室掃除をしていただくなど、日常生活を通して役割を持ってもらい、職員と達成感を味わっている。		畑をやっていた方が多い為、畑での作業ができるよう検討している。
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	希望があればご家族と相談のうえ本人が所持しており、買物の際には自分で支払いをしてもらっている。		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	天候をみながら、本人の気分や希望により、個別に散歩に出かけてお茶飲みしたり、買物と一緒に希望の物を選んでもらったりしている。		雇用の車で個々の希望にあわせて外出を検討していく。
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	行事で外出の際に利用者様のなじみのある地域を回ると喜ばれている。		普段の会話の中から聞き出した利用者様の声を、実現できるように検討していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に葉書を出している利用者様に対し、職員と一緒に葉書を買ったり、ポストに出しに行っている。ご家族に電話したい時にいつでも電話できるように支援している。		ご家族・知人宛の年賀状作りを行なっている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が気軽に訪れて頂けるように、明るい雰囲気笑顔でお迎えし、お茶を飲みながらゆっくり過ごして頂けるようにしている。		ご本人の馴染みの方が気軽に来庵できるようさらに声掛けをしていく。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者様の立場で考えている為、身体拘束することはない。		利用者様がどんな状況であっても、今の意識で対応していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様が外に出た時は、遠くから見守ったり、職員がさりげなく一緒につき、気分転換をして帰って来れるような対応をしている。		玄関ドアに鈴が取り付けられており、利用者様が1人で外に出してしまう危険を未然に防いでいる。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様がどこで過ごしているのかを職員は常に見渡し把握している。夜間、定期的に巡視し、利用者様の様子を確認している。		居室に戻られた際にも、さりげなく訪室し様子を確認している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は夜勤のみ鍵のかかる場所に保管している。はさみ・石鹸等は利用者様の状況に応じて個々に保管している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回防災訓練に参加し、火災発生時の初期対応を学んでいる。事故発生時に速やかに原因と改善策を話し合い、その後の事故防止に取り組んでいる。		転倒事故等の改善対策をスムーズに立て、個々のプランにあげて事故を未然に防ぐようにする。簡易コール・センサーマットを必要に応じて使用して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時マニュアルに基づいて対応し、併設病院及び老健と連絡を密に取っている。		応急手当の勉強会を検討している。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の病院と老健の協力を得て、非難する体制になっている。		地域の人々の協力が得られるように今後も、地域との連携を働きかけていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族が来庵された時は、日頃の利用者様の生活状況をお伝えし理解を得ている。		リスクについて説明した上で、自由な日常生活が送れるよう理解を得ていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲や動作・顔色等の変化があった時は職員間で情報を共有・記録し、看護師に報告し指示をもらっている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、職員は内容を把握している。薬変更や状態変化があった時は看護師に報告し対応している。		今後、薬についての副作用・用法についての勉強会を行っていく。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	朝体操・居室掃除を一緒に行い、体を動かす時間を作っている。野菜中心のメニューにしている。		看護師と相談し、毎朝ヤクルト・ヨーグルトを摂取するようにしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けをして、見守りや介助を行なっている。口腔ケアの研修に参加し、職員に伝達講習をしている。		独自で口腔ケアの勉強会を検討している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は検食簿に記入しており、毎食の個々の摂取量を記録し、状態の把握に努め職員間で申し送っている。病院の管理栄養士に相談に乗ってもらうことが出来る。		各利用者様が食べられる物にメニューや食材を変えたりするなどの工夫をしたり、食べやすい硬さや大きさにしたりしている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ・ノロウイルス・疥癬のマニュアルに基づき速やかに対応している。		感染症の発生状況の情報を掴み、発生率が高いと予想される時は更に留意する。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板漂白を毎日、おしぼり漂白は毎回行なっている。冷蔵庫はアルコールで週1回拭き、台所や食堂の床拭きは毎日行なっている。		食中毒についての情報を収集し、衛生管理に必要なと思われることを行なっていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花を植えたり、ベンチを設置したり、利用者様の手作りの表札をかけたりして親しみやすい空間作りをしている。玄関内に掲示板を設置し、庵の活動がわかるように工夫している。		グループホームであることを地域の方に知って頂けるような工夫をする。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルに季節の飾付けをしてさりげなく季節を感じてもらおうようにしている。自然の光が入るような造りになっており、光が強い時にはレースのカーテンで調整している。		冬場、コタツを設置し居心地のよい雰囲気作りをする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファなど自由に過ごせる場所を確保しており、少人数でくつろげるようにしている。		冬場、コタツを設置し1人1人が自由に過ごせる工夫をする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に馴染みの物品の大切さを説明し持って来てもらっている。日頃の生活の中で作成した作品を飾ったりして、その人らしい居室作りが出来るようにしている。		その人らしい居室作りにおいて、更に工夫していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室はリモコンでこまめに空調を調整し、快適な状態を保っている。換気扇が取り付けられており、いつでも換気出来るようになっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室に手すりをつけたり、浴槽内の椅子を整備し、不安なく入浴できるようにした。物干しも利用者様が自ら行なえるよう、高さ調節ができるようにしてある。		各居室に足元灯を設置し安全な生活が送れるようにする。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室がわかりやすいように目印をつけたり、浴室がわかりやすいようにのれんをつけたりしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を利用して、一緒に作業したり収穫したりして楽しんでいる。ベランダから夏祭りの花火をながめたり、外の風を感じながら景色を眺めたり出来るようお誘いしている。		車椅子の方も畑に行くことが出来るように検討している。

. サービスの成果に関する項目	
項 目	最も近い選択肢の左欄に をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の
	利用者の2/3くらいの
	利用者の1/3くらいの
	ほとんど掴んでいない
89 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある
	数日に1回程度ある
	たまにある
	ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が
	利用者の2/3くらいが
	利用者の1/3くらいが
	ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	ほぼ全ての家族と
	家族の2/3くらいと
	家族の1/3くらいと
	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様の自然な笑顔が引き出せるよう、なじみの関係ができています。職員同士のチームワークが出来ており、穏やかで過ごしやすい雰囲気ができています。